

新連載

1

“前頭側頭葉変性症” を知ろう！



中西亜紀

大阪市立弘済院附属病院
認知症疾患医療センター長

●前頭側頭葉変性症とは

認知症というと“もの忘れ”といった症状や“アルツハイマー病”はすっかり有名になりましたが、もの忘れが目立たず、一般に認知症と理解されにくい病気に“前頭側頭葉変性症”があります。正直なところ、“前頭側頭葉変性症”という言葉自体、未だあまりなじみのない方が少なくないかもしれません。

認知症の原因となる病気で最も多いのはアルツハイマー病で、次いで脳血管性認知症、レビー小体型認知症、そして前頭側頭葉変性症が続きます。これまでの認知症の医療・介護を始めとした数々の研究や取り組みは、やはり、アルツハイマー病を基本に進められてきたといつてよいでしょう。前頭側頭葉変性症がアルツハイマー病ほどは知られていない理由のひとつは、アルツハイマー病より患者さんが少ないことや、認知症の代表的な症状である“もの忘れ”が目立たず、アルツハイマー病などとは症状が

全く違うことなどが理由として考えられます。

前頭側頭葉変性症は、1990年代に提唱された比較的新しい考え方で、前頭葉と側頭葉を中心に脳が徐々に萎縮していく病気の一群をいいます。さらに、病気の中心が前頭葉と側頭葉のどの部分にあるかによって分類され（図1、2）、①前頭側頭型認知症、②進行性非流暢性失語症、③意味性認知症の3つに分けられます。「ピック病」は前頭側頭型認知症の中にはいります。3つのうちで最も頻度が高いのは、前頭側頭型認知症です。これらの病気は男性の方が多いという報告が多く、年齢が比較的若い人に多いとも言われていますが、十分に明らかにはなってはいません。病気の原因は未だ不明で、現時点での治療は対症療法にとどまりますが、アルツハイマー病とは違い、タウ蛋白およ



表) 前頭側頭型認知症を疑う症状

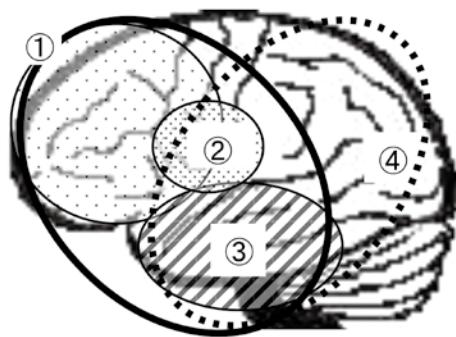
- ①同じことを繰り返す：同じ行動や同じ言葉を繰り返す
- ②時刻表的な生活：毎日同じ時間に同様の行動をとり、制止すると怒る
- ③食べ物へのこだわり：同じ食べ物、特に甘いものばかり限なく食べる
- ④立ち去り行動：周囲の状況に関わらず、突然立ち去ってしまう
- ⑤状況に合わない行動：無遠慮で勝手手にも思える行動をとる
- ⑥無関心：周囲の出来事や自己（衛生、容姿など）へも無関心である
- ⑦逸脱行為：万引きのような反社会的行動、性的な行動などを繰り返す
- ⑧意欲減退：ぼんやりと何もしない、引きこもりが続く
- ⑨言語障害：言葉の意味がわからない、言葉が出にくい
- ⑩記憶障害が軽い：はじめの頃は比較的記憶障害が目立たない
(行動障害や言語障害が目立つ割にはよく解っている)



●中西亜紀（なかにし・あき）
大阪市立弘済院附属病院 神経内科部長
弘済院第2特別養護老人ホーム 管理医師
福祉局高齢者政策部・健康局健康推進部 医務主幹
日本認知症学会 専門医・指導医・評議員

びTDP-43（43kDa TAR DNA結合蛋白）と呼ばれるたんぱく質が関与することが解ってきています。

図2) 前頭側頭葉変性症で病気のおこる中心的な部位（破線④はアルツハイマー病）



出所：H25年大阪市発行 中西亜紀監修「前頭側頭型認知症＆意味性認知症 こんなときどうする」より

●症状について

では、病気が前頭葉や側頭葉を中心におこる前頭側頭葉変性症では、具体的にどういう症状が出るのでしょうか。最も多いとされる前頭側頭型認知症を例にあげると、前頁の表のような症状がみられます。アルツハイマー病であれば、BPSD（認知症に伴う心理・行動症状）ととらえられるような、行動面の変化を中心であることが特徴です。同じ認知症であっても、アルツハイマー病とは治療方法も介護方法も異なり、アルツハイマー病で望ましい介護が、前頭側頭葉変性症では適切でないといったことも起こります。

次回は、前頭側頭型認知症で具体的にみられる症状について、どのように治療・介護を考えるかをお示ししたいと思います。

（つづく）

世界アルツハイマーの標語を募集します

奮ってご応募ください。

●応募要領

- ①1人2点以内
- ②FAXまたはEメール、同封の「会員の声はがき」の余白に記入など、方法は自由。
- ③締切り 5月10日
- ④理事会で選考のうえ総会で決定

●入選作品：世界アルツハイマーのポスター、リーフレットに記載します。（記念品贈呈）

●これまでの標語

- 第20回 2013年度（滋賀県支部 小宮俊昭さん）
忘れても 心は生きてる 認知症
- 第19回 2012年度（栃木県支部 酒井 満さん）
言葉より 心により添う認知症
- 第18回 2011年度（京都府支部 三木敦子さん）
認知症 あなたがつなぐ 支援の輪
- 第17回 2010年度（神奈川県支部 矢作芳恵さん）
認知症 ひとりで悩まず 地域で共に



伝えたいこと

早川一光卒寿の思い

第六話 もぬけの床

ぼくは“末っ子”

いつも両親の間に寝かされていた。

早川の 川の中、ヒヨンな流れで取り残された“白州”のような存在であった。

でも 夜中フト目を覚まして見ると、父の寝床にも母の寝床の中にも よく二人は居なかった。

父は もう 自転車で往診に

母は 消えかかった火鉢の炭をおこして鉄ビンに湯をわかしていた。

深夜に冷えて帰る父に“一服のお茶を”と――。

村ではじめて出来た「こども医者」として何より子供の命を守るのに情熱をかけたようだ。子供の僕にも そのあつい情熱が 知らないうちに伝わっていたように思う。

父は診療場に入ろうとのぞく僕を頑固に拒否した。当時の子供の急性伝染病に接するのをおそれたと同時に、診療に集中する心を我が子の乱入に乱されたくなかったようだ。

父の診療場は 禅寺の修行の場のように いつもピンと張りつめていた。 （つづく）

会員さん からの お便り

ぼ～れぼ～れ2月号
「胃ろうで悩みました」を読んで

胃ろうを決断しました

大阪府・Mさん 女

夫は現在66歳で、要介護5です。平成22年頃より、よくむせておりましたので、その時より「胃ろう」を決断しておりました。大阪の代表も副代表も在宅で胃ろうの奥様を介護されていた（現在お亡くなりになられている）。先輩の手本があったので、平成24年4月誤嚥性肺炎で入院して医師より診断があった時は「胃ろう」を即決しました。

賛否はあると思いますが、夫に話しかけると、アイコンタクトと心で返事をしてくれます。吸引器、栄養ゼリー持参で夫のマイカーの車椅子で外出もできます。

いろんな方に支援していただき、夫の希望通りの在宅介護ができるのも「胃ろう」にしたからと感謝しております。夫も「胃ろうにして良かったよ」と言ってくれていると思います。

ぼ～れぼ～れ1月号
「夫を思うと胸がはりさけそう」を読んで

そんなに気負わなくていいのでは？

香川県・Mさん 67歳 女

Sさんの気持ち良くわかります。私が57歳の時、一つ年上の夫が進行の速い若年性

アルツハイマー型認知症と診断されました。本人の方がショックを受けているかと思うと、私までもが落ち込んではダメだと思う気持ちがありました。

デイサービスは我が夫も行きたがらず、送迎の職員さんの手を払い、車道へと進みドンドンと家とは反対の方向へと歩いて行き、追いかけるのが大変な時もありました。私も一緒にデイサービスに行き、2時間程そこで過ごした後抜け出し、夫には送迎の時間まで過ごしてもらう方法をとりました。

私の経験からですが、あまり行きたがらない人をデイサービスに行かすのは、週2回までが限度かと思います。夫の調子が良いからと週3回に変更してから送迎時の逃走、暴力となり後悔しました。

私は頑張りすぎた結果、脳梗塞を発症し、うつ病も発症してしまい在宅介護を諦めざるを得なくなりました。今、夫は老健でお世話になり、穏やかに過ごしています。できるだけ毎日面会に行き、神様から頂いた二人の時間を大切にしています。

Sさん、くれぐれもご自愛ください。頑張らなくていいから、諦めないでください。介護生活は寄り添い、歩幅を合わせて二人三脚で歩いていくしかないと思います。

もうすぐ3年です

千葉県・Mさん 63歳 女

72歳のアルツハイマー型認知症の夫を介護しています。「つどい」ではやさしく、笑顔で、明るく、決して怒らないようにと聞きました。わかってはいるのですが、私が時々かんしゃくを起こしてしまいます。もっと、介護の仕方、特に夫の要求に対する対応の仕方を学びたいです。あれもだめ、これもだめではかわいそうですが、危険なことはさせられません。その見極めを教わりたいです。医者には家でみられるのは3年と言われました。もうすぐ3年です。

姉がおかしい…

福岡県・Aさん 77歳 女

4歳違いの姉が、一つ二つとおかしいと感じる場面が増え…。姉の友人からも「このところ姉さんは少し変であった」と言われて…。

これは大変。今のうちに何とかしなくてはと、「家族の会」に入会します。

今、しんどいです

京都府・Uさん 60歳 女

84歳の実母は2年前アルツハイマー型認知症と診断されました。兄はいますが、病気のため、私一人の介護です。悪者は全部娘である自分。完全にわからなくなっているのではなく、わかっている事も1／3程はある。

10年以上、ヘルパーをやってきましたが、自分の親となるとこれほど精神的につらく、疲れるということがわかりました。今、とてもしんどい…。

いたずらをしている？

大分県・Iさん 62歳 女

アルツハイマー型認知症と診断されて12年になる86歳の実母と同居を始めてから、家族の事、母の事で私はいつも壁にぶつかり、気忙しい気持ちで過ごしていました。認知症というものが病気と理解できず、母が私に「いたずら」をしているなどとさえ思い、つらい毎日でした。「家族の会」の皆様の体験談は母への接し方を豊かにさせてくれました。

前に向かっています

香川県・Iさん 50歳 女

81歳の義母が1年前にアルツハイマー型認知症と診断されました。家族として動搖し、迷ったり悩んだりしましたが、月1回の家族会に出席することで、迷いや悩みは早いうちに解消することができ、心を切り替えて前に向かっています。これから症状が進んでいくと思いますが、「家族の会」の存在は私の心の支えとなっていくと思います。

在宅介護にふみきれず

宮城県・Iさん 72歳 男

私72歳、妻67歳。妻は5年前にアルツハイマー型認知症と診断されました。現在入院中で、本人は家に帰りたがっているふしもみられますが、別居の息子は、本人はどこにいるのかもわからないだろうと言います。家に帰って来ても、また、病院に戻ることになるのではと言うので、家で介護することにふみきれないでいます。

毎日は繰り返し

大分県・Oさん 54歳 女

87歳の義父との同居4年目。穏やかに過ごす日々とマイナス思考の思いばかり口にする日々が繰り返される。

私自身が穏やかに話を聞けず、気がめいる時、他の人たちはどうしているのか意見を聞きたいです。

お待ちしています！

■お便りで紹介した人へのお返事を「家族の会」編集委員会宛にお寄せください。

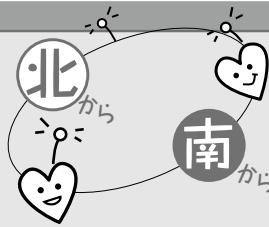
〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下ル京都社会福祉会館内
FAX.075-811-8188 Eメール office@alzheimer.or.jp

128 支部だよりにみる 介護体験

今回は
愛知県

「義父の介護から」

愛知県支部 M-I



愛知県支部版
(2014年2月号)



●認知症の発症

義父が認知症を発症したのがいつかというと、今から10数年前というだけで、正確には記憶しておりません。初めは、「あれ?」と思うことがしばしばきました。「朝と違う上着を来て帰ってきた、あれ?」そして少しずつもの忘れが増え、趣味や畠仕事などに対する興味を失い、気力がなくなつていき、常識では考えられないような奇妙な言動が増えていったという状態です。正直に言うと、家族がそれぞれ、おかしいと思いながらも、認知症とは認めたくないという状態でした。

初めて診察を受けたのは、発症から数年たつてのことでした。どこに行けばよいのかもわからず、とにかく総合病院である市民病院の脳外科へ行きました。そこでCTを撮っていただき「年相応のもの忘れ」と診断されました。診断に義母はすっかり安心して薬も使わず対策もしませんでした。ただ、計算ドリルやら漢字ドリル、塗り絵などを山ほど買ってきて義父にやらせようとするのです。義父は「何でこんなことをやらないかんのだ」と言って手をつけようとはしませんでした。

●認知症の進行、退職、再受診

月日は流れ、徐々に認知症は進んでいきます。義母から困ったという話を山ほど聞かされます。職場にも電話が入るようになり、30年続けた大好きな仕事を辞めることになりました。退職した後、ちゃんと受診させようと思い、市内の心療センター「もの忘れ外来」に認知症専門の先生がいることがわかり、すぐに予約を入れました。診察の結果、アルツハイマー型の認知症と診断を受けました。さすがの義母も認めざるを得なくなりました。

元気なアルツハイマー型認知症の義父を介護していますと、困ったこと、驚くようなことが毎日起きますが、それはそれで平穏な

日々だと言つてよいでしょう。

●一変した介護生活

それが変わったのは、義父が膠原病の一種であるリウマチ性多発筋痛症を発病してからです。40度を超える高熱と体の痛みのためステロイド剤での治療となるのですが、認知症にはなかなか難しいものです。副作用で食欲が増進し、食べる食べる食べる、体重も一気に増え、ステロイド性の糖尿病にもなりました。

いろいろな感染症にもかかりやすくなり、入退院を繰り返しました。点滴を抜くことなどはしょっちゅうで、睡眠導入剤が効かず大声を出していました。入院するたびに看護師から「他の患者さんの迷惑になるので個室に替わってください」「点滴の間だけでも付き添ってください」「夜は眠られないで付き添いをお願いします」などと。「点滴の間は」「夜は」ですって、それでは一日中ではありませんか。

●入院生活の末

結局、私と義母と主人と3人で交代しながら、ほぼ24時間の付き添いということになりました。睡眠不足の日が続きました。最後の入院時には嚥下も悪くなつて、ついに食べ物がのどを通らなくなつた時にも、ドクターから「胃ろう」の話はでませんでした。点滴だけで命をつなぎ、50日後に静かに息を引き取りました。

これが私の介護体験です。最近になって、実の父も、認知症の兆候がいろいろ表っています。義父の場合と違い、同居していませんので通い介護になりますから、行き届いた介護はできないだろうと覚悟しています。でも、無理はしない、頑張りすぎないと決めています。

リレーエッセー

～老いをめぐる私の想い～

Relay Essay



吉田乃美
(よしだ
なみ)
シルバー新報編集部

介護保険に救われた



初回から個人的な話で恐縮だが、この原稿を書いている3月某日は、私の母の誕生日だ。生きていれば、72歳になるはずだった。

両親は15年ほど前に離婚し、出ていったのは父親のほう。事業に失敗して借金を抱え、最終的に他の女性と暮らすことを選んだからだ。当時、子どもである私と妹はすでに独立していた。母は請求できない慰謝料の代わりに、父親の母（母からすれば義母）と暮らしていた家（祖母の名義）にそのまま住み続けた。

複雑な環境の中で暮らしていた私の母は、数年前から父の兄弟らに心理的に追い詰められるような仕打ちを受けるようになっていたのだが、それをひと言も私は相談することはなかった。私も忙しさにかまけてつい、電話やメールでたわいない近況を伝えるだけにとどまって、なかなか実家を訪ねることをせず、結局異変に気付いた時には、母は心身ともにどん底まで追い詰められていたのだ。

そんな母を救ってくれたのは、相談に行った地域包括支援センターのケアマネジャーだった。普通の人には理解しがたい状況も全て受け入れてくれ、「とにかくお母さんを元気にしてあげないと」と、介護保険の認定が下りる前にヘルパーを入れ、毎日のように母の様子を見に訪問もしてくれた。母も、離れて暮らす私と妹もどれだけ救われたか分からぬ。

先の見通しに希望が見え始め、母自身も生きる気力を取り戻しつつあった矢先、腹部大動脈瘤破裂であっけなく天に行ってしまった。それが昨年6月のこと。そのひと月後、税と社会保障の一体改革が本格的に始動し、要支援者の予防給付を自治体の地域支援事業に移すという改革案が出されたことで、私は「家族の会」の代表理事である高見国生さんにインタビューをさせていただいた。

介護保険にはもともと税金も投入されているし、4月から上がる消費税もその充実のために使うとされている。母の死を巡り、誰もが必要な時に頼れる制度であってほしいと強く思うようになっていた。

「高齢者はたとえ大声を出したりデモをしなくとも、静かな怒りを抱えている。それが集まればきっと社会を変えられる」。今回の改正に対する高見さんの強い憤りの根っこに、本気で介護保険を大切に思う気持ちが見えた。それは、ちっぽけな媒体とはいえ長年記者をしてきた私に、改めて「当事者の声を伝えたい、伝えなければ」という思いにエンジンをかけてくれたのである。

介護保険に助けられた1人として、介護の社会化とは何か、問い合わせていきたいと思っている。

いきいき 「家族の会」 まちでも村でも

励まし、励まされた思いを力に

埼玉県
支部

新年交流会が1月18日、川越市で開催されました。「重要課題が山積していますが、まずは1人ひとりを大切にすることから始めましょう」と花保ふみ代表の挨拶に続いて、参加者全員46名が自己紹介。「なにが

なんでも、この会だけは参加したくて」と久しぶりの参加の方もおられました。会食後は、熱心な話の輪があちこちで広がっていましたことから、「若年期の介護」などの4グループに分かれ、話は益々深まりました。

そして、誰もが励まし、励まされた思いを力に、新しい年をスタートすることができたようです。

「美浜町地区会」立ち上げ !!

福井県
支部

映画「サクラサク」の舞台美浜町で、認知症の理解と支援に関する取り組みが進められています。

その中に「地区会」の立ち上げがあり、支部では積極的に関わり、昨年、一昨年度に町の研修会で前川久

子代表が「家族の会」の紹介や講演をしました。

4月26日に高見国生代表を招き、美浜町と共に『「サクラサク」映画化記念講演会』も予定しています。

支部設立後初めての高見代表県内講演を契機に多くの仲間が増え、美浜町で「つどい」などの「家族の会」の活動が展開されることが期待されています。

マスコミの影響に驚き

島根県
支部

2月6日に開催した浜田認知症カフェに、個人6名、ご夫婦1組の計8名の方が初めて来訪。何か不安そうな様子に会員が「どうぞお上がりください」と声を掛けると、少しほっとされた様子で、大きな炬燵に一緒に

に座りました。お茶を勧めた後、専門職・介護経験者が個別相談に応じ、現在の状況や困りごと、将来への不安などを聞き、助言をしました。

今回の来訪者8名は、「新聞やテレビを見て寄せて頂きました」と言われ、世話人の金子多美子さんはマスコミの影響の大きさに驚いていました。

夫婦の絆の深まり

宮崎県
支部

「昔は離婚を考えたほど夫婦仲が悪かった。認知症の夫は、トイレが間に合わず失禁が増えてきた。私がいなくなったらどうする?と聞くと、両手指をパッと広げてパンザイをする。今はとても穏やかな気持ちで

介護をしています」。

2月15日、宮崎市総合福祉保健センターで行った「つどい」の参加者の方から「介護を通して夫婦の絆が深まった」というお話です。短時間のつどいで充分語り合えなかった中、「印象に残った話のひとつです」と世話人の池田京子さんが語っています。

国際交流委員会発 シンガポールの巻 「ケアでつながる地球家族」

■おしゃれなレストランで認知症カフェ—シンガポールの巻—

シンガポールアルツハイマー病協会が、今年2月に開催した認知症カフェについて紹介します。

ブリッジ@クロッシングカフェと名づけられたこの催しは、シンガポール市内にあるカトリック教会関係のNPOの運営するレストランで開かれました。(写真)

安心してくつろげる環境の中で、ふつうの社会生活の感覚を味わってもらうこと、本人とその家族が互いの絆を深めてもらおうというのがこのイベントのねらいです。

協会のメンバーのリードで自己紹介や歌、ゲームそして飲み物や食事を楽しんで2時間を過ごしました。参加した家族からは「夫

が認知症になってから、一緒にカフェへ行くことなんてできませんでした。今日は、病気なんかなかったことのように感じました」「私はこんなにくつろいだ楽しい時間を、母と一緒に過ごしたことはありません」「母は本当に嬉しそうでした。これからももっとこんな機会がほしいです」という声があり、また本人からは「ここのサービスはとても良かったです。満点より上の点数を上げましょう」という感想があったとのこと。

コーヒーを飲みながら打ち解けた様子で語りあっている様子は、誰が本人で家族なのか、スタッフなのかわかりませんでした。と記事は伝えています。シンガポールアルツハイマー病協会は今後、いろいろな場所で認知症カフェを開催していく予定とのことです。

(国際交流委員 鶩巣典代)





今月の本人

宮城県支部・丹野智文さん（40歳）

富山県支部・松島研二さん（66歳）

2月27日、厚生労働省が企画する5回目の「若年性認知症施策を推進するための意見交換会」として、本人の声～安心と希望にむけた施策を求めて～が都内で開かれました。「家族の会」からは、会報2・3月号で紹介された宮城県支部

の丹野智文さんと、富山県支部の松島研二さん、それぞれの家族、サポートー、高見国生代表が出席しました。他に全国から4名の本人がご家族とともに出席しました。その時の様子を紹介します。

同じ思いの人たちと一緒に生きたい

丹野さんはこの日、40歳の誕生日を迎えました。確定診断がつくまでに時間がかかったこと、その間の思いや家族のことを話しました。特に、中学生の娘さんが「アルツハイマー病」についての本を読み、「お父さんの病気は大変なんだね」と言った時、改めて今後の病気の進行のことや生活のことを考えたというエピソードを紹介。「自分と同じ思いの人たちと一緒に生きたい。40歳以下で大変な思いをしている患者を救済してほしい！」と訴えました。

松島さんは、診断から10年間の日々の気持ちや生活について話しました。デイサービスや認知症カフェ以外に、体力維持のためのジム通い、英会話教室などにも通っているという生活の様



「家族の会」からの参加者。前列中央が丹野智文さん（2月27日、東京・大手町）

子、「家族の会」の仲間との交流について語りました。また、能力に合った仕事をしたいという希望も述べました。

その他に出席された本人4名もそれぞれ、病気が分かってからの日々や気持ちについて話されました。共通していたのは、もっと早く診断がつくようになってほしい、家に引きこもりがちになるので日常の居場所がもっとほしい、経済的な支援がほしい、できる仕事があったらしたい、障害者手帳などの社会制度への要望などでした。

（サポートー 勝田登志子）



思いを語る松島研二さん。
左は妻・恵子さん



交流の場

宮城●5月1日(木)・15日(木) 午前10:30～午後3:00／翼（本人・若年）のつどい→泉社会福祉センター
埼玉●5月28日(水) 午前11:00～午後1:00／若年のつどい・大宮（北区）→地域包括支援センター 謙訪の苑
富山●5月3日(土・祝) 午後1:30～3:30／てるてるぼうずの会→サンフォルテ

岐阜●5月11日(日) 午前11:00～午後3:30／岐阜市のつどい→アルトケアセンター
●5月18日(日) 午前11:00～午後3:30／各務原市のつどい→ニッケかかみ野苑
愛知●5月10日(土) 午後1:30～4:00／元気かい→東海市しあわせ村
滋賀●5月14日(水) 午前10:00～午後2:00／ピアカウンセリング→成人病センター職員会館
広島●5月3日(土・祝) 午前11:00～午後3:30／陽溜まりの会東部→福山すこやかセンター

●5月10日(土) 午前11:00～午後3:30／陽溜まりの会広島→中区地域福祉センター
●5月17日(土) 午前11:00～午後3:30／陽溜まりの会北部→三次市十日市コミュニティセンター
熊本●5月3日(土・祝) 午後1:30～4:00／若年期認知症のつどい→県認知症コールセンター
大分●5月10日(土) 午後1:00～3:00／若年性認知症のつどい→県社会福祉介護研修センター

詳細は各支部まで